

第4四半期の好調な大型案件の総契約額は45億ドルで2023年度は過去最高の177億ドルとなり、成長への強固な基盤を確立

2024年度の見通し：売上成長率1%~3%、営業利益率20%~22%

バンガロール (インド) – 2024年4月18日：次世代デジタル・サービスおよびコンサルティングの世界的リーダーであるインフォシスの2023年度の売上高は186億ドル、成長率は実質ベースで前年比1.4%増、営業利益率は20.7%でした。フリーキャッシュフローは2022年度比13.7%増の28億8,200万ドルと好調でした。2023年度の大規模案件の総契約額は過去最高の177億ドルで、新規契約率は52%でした。

第4四半期の売上高は45億6400万ドルで前年同期比横ばい、実質ベースでは2.2%減でした。同四半期の大型案件の総契約額は45億ドル、新規契約率は44%でした。営業利益率は40bps減の20.1%でした。フリーキャッシュフローは8億4,800万ドルと堅調でした。

最高経営責任者兼取締役の Salil Parekh は、「2023年度の大規模案件の契約額は過去最高となりました。これは顧客からの強い信頼を反映しています。当社のジェネレーティブ AI のケイパビリティは拡大を続けています。当社は、ソフトウェアエンジニアリング、プロセスの最適化、およびカスタマーサポートにインパクトを与える大規模言語モデルを活用した顧客プログラムに取り組んでいます。」と述べました。さらに、「お客様のために価値を創造すべく取り組んでいる世界中の317,000人の従業員に感謝の意を表したいと思います。」と述べました。

<p>23年度 1.4% 第4四半期横ばい 実質ベースの 成長率</p>	<p>23年度 20.7% 第4四半期 20.1% 営業利益率</p>	<p>23年度 10.0% 第4四半期 30.2% EPS 増加</p>	<p>23年度 177億ドル 第4四半期 45億ドル 大型案件総契約額</p>	<p>23年度 29億ドル 第4四半期 8億4800万ドル FCF</p>
---	---	--	---	---

2024年度の見通し：

- 売上成長率は実質ベースで1%-3%
- 営業利益率は20%-22%

1. 実績の概要 :

2023 年度第 4 四半期

- 売上成長率は実質ベースで前年比横ばい、前期比 2.2%減少
- 売上高は 45 億 6400 万ドル、前年比 0.2%増
- 営業利益率は 20.1%、前年比 0.9%減、前期比では 0.4%減
- 基本 EPS は 0.23 ドル、前年比 28.9%増
- FCF は 8 億 4800 万ドル、前年比 18.9% 増、FCF コンバージョン率は純利益の 88.4%

2023 年度

- 売上成長率は実質ベースで前年比 1.4%増
- 売上高は 185 億 6200 万ドル、前年比 1.9%増
- 営業利益率は 20.7%、前年比 0.3%減
- 基本 EPS は前年比 7.3%増の 0.77 ドル
- FCF は 28 億 8200 万ドル、前年比 13.7%増、FCF コンバージョン率は純利益の 91.0%

「第 4 四半期のフリーキャッシュフローは運転資本サイクルの改善に注力した結果、過去 11 四半期で最高となる 8 億 4,800 万ドルを達成しました。株主への予測可能な高い利益還元という目的に沿って、取締役会は今後 5 年間で 85%の利益還元を見込み、年間 1 株当たりの配当金を段階的に増加させるという資本配分方針を承認しました。」と最高財務責任者 (CFO) の **Jayesh Sanghrajka** は述べています。さらに、「中期的な営業利益率の拡大とキャッシュ創出の改善は、『Project Maximus』の初期の成功に支えられた当社の優先事項であり続けます。」と述べました。

2. 資本配分

- 2023 年度、取締役会は 1 株当たり 20 ルピー (1ADS 当たり 0.24 ドル) の最終配当と、1 株当たり 8 ルピー (1ADS 当たり 0.10 ドル*) の特別配当を提案しました。これを踏まえて、2019 年度から 2023 年度にかけての配当総額は、先に発表した資本配分方針に沿って、フリーキャッシュフロー (FCF) の 85%となります。
- 2024 年 4 月 18 日に開催された取締役会において、戦略上および業務上の資金需要を考慮した上で、以下の通り、今後 5 年間 (2024 年度から 2028 年度) の資本配分方針が検討・承認されました。

「2024 年度以降も、適用される法律および必要な承認がある場合には、年 2 回の配当および/または自社株買い/特別配当の組み合わせにより、フリーキャッシュフローの約 85%を 5 年間にわたって累積的に還元するという方針を継続する予定です。」

この方針の下、当社は 1 株当たり年間配当金（特別配当がある場合はそれを除く）を段階的に増加させる予定です。

フリーキャッシュフロー（FCF）とは、IFRS に基づき作成された連結キャッシュフロー計算書に従い、営業活動から資本支出を差し引いた純現金として定義されます。配当と自社株買いは適用される税金を含みます。

*参考為替レート：1 ドル=83.41 ルピー

3. インドの所得税命令に関する最新情報

当社は 2024 年 3 月 31 日に終了する四半期中に、インドの所得税当局から、2007-08 年から 2015-16 年、2017-18 年および 2018-19 年の課税年度について、1961 年所得税法第 250 条および第 254 条に基づく命令を受けました。これらの命令は、特定の争点に関する税務処理に関して当社の立場を確認するものでした。その結果、2 億 3,200 万米ドルの受取利息（税引前）が認識され、総額 6,300 万米ドルの法人税引当金を取り崩され、損益計算書に計上されました。また、係争の解決に伴い、総額 1 億 9,600 万ドルが偶発債務から減額されました。

4. 金融サービス事業の顧客に関する最新情報

第 4 四半期に、金融サービス事業における大型契約の 1 つについて、契約範囲の変更と再交渉が行われ、第 4 四半期に約 100bps の一時的な影響が発生しました。契約範囲の約 85%はそのまま継続されます。

5. 顧客の獲得と証言

- インフォシスは、業界をリードする AI とクラウド製品である Infosys Topaz と Infosys Cobalt を活用し、IT オペレーションの自動化を支援するため、Musgrave との戦略的協業を発表しました。**Musgrave** の **最高技術責任者（CTO）** である **Stephen Mckenna 氏** は、次のように述べました。「最近発表されたインフォシスとの協業により、インフォシスの専門知識とリソースを活用して、すべての顧客とリテールパートナーに革新的なソリューションを提供できるようになることを嬉しく思います。Musgrave は、常に顧客に可能な限り最高のサービスを提供することに全力を注いでおり、今回の協業はその取り組みを示すものです。この協業により、すべての顧客に利益をもたらす新しく魅力的な製品とサービスが生まれると確信しています。」
- インフォシスは、PROG ホールディングスと協業し、PROG ホールディングスが現在進めているクラウドと AI を中心とした技術の近代化と革新への取り組みの重要な要素として、AI を活用した体験を顧客に提供し、インテリジェントな自動化を業務に導入します。**PROG ホールディングスの社長兼 CEO** である **Steve**

Michaels 氏は、次のように述べています。「PROG ホールディングスの主要テクノロジーとプラットフォームの市場投入スピード、敏捷性、拡張性に好ましい影響を与える重要なシステムを開発・強化するために、インフォシスと協業できることを楽しみにしています。インフォシスとの協業により、顧客とリテールパートナー双方の摩擦が減り、25 年前に当社が創設に貢献したバーチャル lease-to-own 業界における PROG ホールディングスの地位がさらに揺るぎないものになると期待しています。」

- インフォシスは Pacific International Lines (PIL) と協業し、PIL の既存の顧客ポータル刷新と、拡張性のある最新のテクノロジープラットフォームの導入を支援することで、デジタルトランスフォーメーションの取り組みを加速させ、輸送と物流のエコシステム全体で PIL の主要な利害関係者に好ましい影響を与えることを目指しています。**Pacific International Lines (PIL) のチーフ・コマーシャル・オフィサー**である **Lionel Patrice Chatelet 氏**は、「当社は、テクノロジーを提供するだけでなく、変革への道のりにおいてアドバイザーの役割を果たすことができるパートナーを探していました。インフォシスは、的確な能力だけでなく、非常に協力的な仕事の進め方も兼ね備えています。インフォシスと協力できることを嬉しく思います。」と述べました。
- Resolution Life Australasia は、クラウドへのシームレスな移行を可能にすることで、同社のメインフレームシステムを仮想化し、全体的な顧客体験を向上させるためにインフォシスと協業しました。**Resolution Life Australasia の CIO**である **Peter Histon 氏**は、次のように述べています。「インフォシスは、仮想化の一環として独自のアクセラレーターを多数導入し、ソリューションの迅速な提供を支援してくれました。しかし、それ以上に、インフォシスはさまざまな人材を投入してくれました。私たちは、基盤となるアプリケーションの移行に関して先進的なアプローチをとり、非常に大規模なリリースを 2 回実施しました。インフォシスは、すべてのステップで私たちと協力してくれました。」
- zooplus とインフォシスは、インドのハイデラバードに AI 主導の製品・技術ハブを設立するため、8 年間の戦略的協力関係を締結しました。**zooplus SE の最高情報責任者 (CIO)**である **Markus Hermanutz 氏**は、次のように述べています。「インフォシスを選択し、AI 主導の新しいハブを設立することで、当社の事業成長への意欲を高めることができます。Infosys Topaz を利用することで、大規模な生産性と効率性を実現し、当社の e コマースバリューチェーン全体における今後の変革に適した人材を集めることができます。」
- インフォシスは、SAP S4 導入における当初の成果を踏まえ、ハズブロとの協力関係を拡大しています。複数年にわたる戦略的契約を通じて、両社の関係と戦略をグローバルに推進しています。インフォシスの AI に関する専門知識と、実績のある経験主導のコグニティブアプローチを活用することで、インフォシスはハズブロのグローバルビジネスをサポートする態勢を整えています。この協業は、オペレーショナルエクセレンスを推進し、イノベーションを促進し、世界中の顧客と従業員の双方に優れた体験を大規模に提供することを目的としています。**ハズブロの CIO 兼グローバル・ビジネス・イネーブルメント担当ヘッド**である **Steve Zoltick 氏**は、「インフォシスは、協業において適切な人材を投入し、当社のケイパビリティを強化し、グローバル・ビジネス・イネーブルメントの達成を可能にしてくれます。」と述べました。

- Infosys Finacle は、Regional Investment Corporation (RIC) に Finacle Digital Lending Solution Suite を Software-as-a-Service (SaaS) 方式で導入し、Finacle Online Banking と Finacle Alerts Solution の導入に成功しました。**Regional Investment Corporation (RIC)** の **トランスフォーメーション担当エグゼクティブ・ディレクター**である **Chris Rawlins 氏**は、次のように述べています。「RIC の使命は、手ごろな価格の融資を通じてオーストラリアの農業ビジネスの成長を促すと同時に、その回復力と収益性を確保することです。Infosys Finacle Lending ソリューションにより、私たちのビジネスと顧客の進化する要求をサポートする実証済みのテクノロジープラットフォームを手に入れることができ、同時に新しい商品や連邦政府によって義務付けられた規制を導入するための敏捷性も確保しました。Infosys Finacle チームによる 9 カ月間の導入は予定通りに行われ、顧客に混乱を与えることなく円滑な移行を実現するために RIC を支援するチームの献身的な姿勢に感銘を受けました。」
- インフォシスと Handelsblatt Media Group は、Infosys Topaz を活用することで、世界の経済・金融トピックに関する複雑なレポートを一般の人々がより利用しやすく、簡単に活用できるようにするため、Handelsblatt Research Institute (HRI) を支援する戦略的協業を発表しました。**Handelsblatt Research Institute** の **マネージング・ディレクター**である **Jan Kleibrink 博士**は、「インフォシスと協力し、AI を活用した最先端のトレンドレポートを提供できることを嬉しく思います。Handelsblatt Research Institute の中核業務のひとつは、複雑な経済関係と科学的分析結果を幅広い読者に提示することです。私たちは、最高品質の文章と、高品質のインフォグラフィックスに基づく視覚的なストーリーテリングによってこれを実現しています。インフォシスを AI とデジタルイノベーションのパートナーとして迎え、私たちは今、AI を活用したデジタルストーリーテリングの次の段階に進んでます。」と述べました。

6. 表彰

AI およびクラウドサービス

- 人工知能マネジメントシステムのフレームワークの導入により、ISO 42001:2023 認証を取得
- IDC MarketScape: Worldwide Higher Education Cloud Professional Services Vendor Assessment のリーダーに認定される
- HFS Horizons: Assuring the Generative Enterprise™, 2024 においてリーダーに認定される
- ISG の Multi Public Cloud Services Provider Lens™ study でリーダーの評価
- 米国、欧州において ISG の Intelligent Automation - Solutions and Services Provider Lens™ study でリーダーの評価

主なデジタルサービス

- The Forrester Wave™: Application Modernization And Migration Services, Q1 2024 でリーダーの評価
- Everest の Unified Communication & Collaboration (UCC) Specialist Services PEAK Matrix® Assessment 2024 でリーダーとして認定され、エベレストによる UCC 格付けで 1 位を獲得
- Everest の Pega Services PEAK Matrix® Assessment 2024 でリーダーの評価
- Everest の Application Transformation Services PEAK Matrix® Assessment 2024 – North America においてリーダーとして認定される
- Everest の Application Transformation Services PEAK Matrix® Assessment 2024 – Europe においてリーダーとして認定される
- Everest の Software Product Engineering Services PEAK Matrix® Assessment 2024 においてリーダーとして認定される
- Everest の Talent Readiness for Next-generation IT Services PEAK Matrix® Assessment 2023 においてリーダーの評価
- IDC MarketScape: Worldwide Blockchain Services 2024 Vendor Assessment においてリーダーに認定される
- Cyber Resiliency NEAT 2024 by NelsonHall においてリーダーの評価
- Salesforce Services 2024 NEAT 2024 by NelsonHall においてリーダーの評価
- Constellation Research の ShortList 2024: Custom Software Development Services においてリーダーの評価
- Constellation Research の ShortList 2024: Innovation Services and Engineering においてリーダーの評価
- Constellation Research の ShortList 2024: Learning Marketplaces においてリーダーの評価
- Constellation Research の ShortList 2024: Microsoft End-to-End Service Providers においてリーダーの評価
- Constellation Research の ShortList 2024: QA Tools for NextGen Apps においてリーダーの評価
- Avasant の Retail Digital Services 2024 Radarview™においてリーダーに認定される

- Avasant の SAP S/4HANA Services 2023–2024 Radarview においてリーダーに認定される
- 米国、欧州、グローバルにおいて ISG の Environmental, Social and Governance Services (ESG) Provider Lens™ study のリーダーに認定

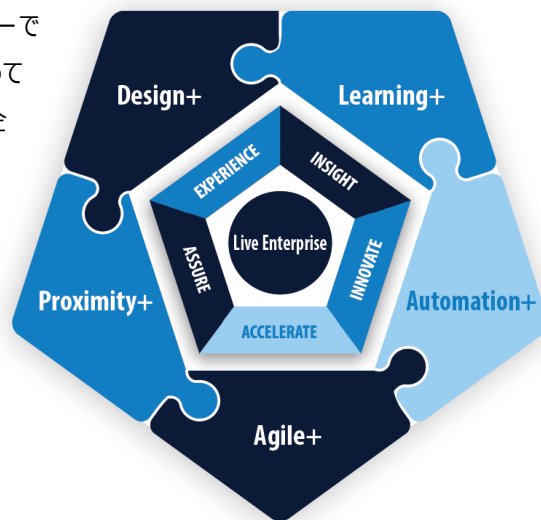
業界&ソリューション

- Everest の Retail IT Services PEAK Matrix® Assessment 2024 においてリーダーに認定される
- HFS Horizons: Manufacturing Intelligent Operations Services, 2024 においてリーダーに認定される
- HFS Horizons: The Best Service Providers for Asset and Wealth Management においてリーダーに認定される
- ESG Services in Banking 2024 by NelsonHall においてリーダーの評価
- Innovation Radar – Salesforce Related Services in Europe: The Communications & Media View by PAC, The Manufacturing View by PAC, The Energy & Utilities View by PAC, および The Financial Services View by PAC においてリーダーの評価
- Infosys Finacle は顧客とともに、Retail Banker International Asia Trailblazer Awards 2024 で複数の業界賞を受賞。これらの賞には以下を含む。Infosys Finacle Mobile Teller awarded for Most Innovative Branch Offering; Infosys Finacle and HDFC awarded for Excellence in Mass Affluent Banking; Infosys Finacle and South Indian Bank awarded for Best CSR Initiative – Environmental Impact; Infosys Finacle and Suryoday Bank awarded for Best Core Banking System Initiative
- Infosys BPM と T-Mobile が SSON North America Impact Award 2024 の Creative Talent Management 部門を受賞
- Infosys BPM が ISG Digital Case Study Research and Awards 2023 で 3 つの STANDOUT 賞を受賞: Banking and Financial Services (インド)、Communications (アジア太平洋)、Retail (英国、アイルランド、北欧)
- Infosys BPM が HR Tech Summit & Awards 2024 で Best Workplace Diversity Award を受賞

DIGITAL NAVIGATION FRAMEWORK

インフォシスについて

インフォシスは次世代デジタル・サービスとコンサルティングのグローバル・リーダーです。約30万人の従業員が、人間の可能性を増大し、企業、コミュニティにとって次の機会を創出するために働いています。40年以上にわたってグローバル企業のシステムや仕組みを管理してきた実績に基づき、クラウドによるデジタル変革の推進に向けて56か国以上の顧客を支援しています。当社では企業がAIを導入したコアを利用できるようにしています。また、ビジネスにアジャイル手法とデジタル化を大規模に導入することで、かつてない高いレベルのパフォーマンスと顧客満足度を提供します。インフォシスの常に学ぶ姿勢は、デジタル・スキル、専門知識、およびイノベーション・エコシステムから創出されるアイデアの確立と移転を通じて、お客様の継続的改善を実現します。



インフォシス (NSE, BSE, NYSE: INFY) が次のステージへと進む企業を支援する方法については、www.infosys.com をご覧ください。

セーフハーバー条項

当社の将来の財務もしくは売上業績に関連した見通しに関する記述は、1995年の米国私募証券訴訟改革法における「セーフハーバー条項」に準拠するための予測に基づいた記述であり、実際の結果を大きく異なる可能性のあるリスクや不確実性を含んでいます。これらの記述には、当社の事業戦略の実行、人材の採用・確保、ハイブリット式業務モデルへの移行、経済的な不確実性、生成 AI などの技術革新、複雑で修正される規制（出入国管理規制の変更、当社の ESG ビジョン、市場地位、将来の事業運営、成長、利益率、収益性、減損、流動性、資本資源に関する当社の資本配分方針と予想、買収等の当社の企業活動を含めます。実際の結果や結果は、将来の見通しに記載されているものとは大きく異なる原因となる重要な要因については、2023年3月31日付の年次報告書様式 20-F を含め、米国証券取引委員会に記載されています。これらの報告書は、www.sec.gov でご覧いただけます。インフォシスは、米国証券取引委員会や当社株主への報告書など、書面および口頭により将来の展望を適宜発表する場合がありますが、法律により義務付けられている場合を除き、当社が随時発表する将来の展望について更新する義務を負わないものとします。

連絡先

投資関連

Sandeep Mahindroo
+91 80 3980 1018

Sandeep_Mahindroo@infosys.com

メディア関連

Rishi Basu
+91 80 4156 3998

Rajarshi.Basu@infosys.com

Harini Babu
+1 469 996 3516

Harini_Babu@infosys.com

IFRS に基づく要約連結貸借対照表（抜粋）

(100 万ドル)

	2024 年 3 月 31 日	2023 年 3 月 31 日
資産		
流動資産		
現金および現金等価	1,773	1,481
短期投資	1,548	841
売掛金	3,620	3,094
未請求収益	1,531	1,861
その他の流動資産	2,250	1,349
流動資産合計	10,722	8,626
非流動資産		
有形固定資産および使用権資産	2,323	2,516
のれんおよびその他無形資産	1,042	1,095
非短期投資	1,404	1,530
未請求収益	213	176
その他非流動資産	819	1,369
非流動資産合計	5,801	6,686
資産合計	16,523	15,312
負債および資本		
流動負債		
買掛金	474	470
前受収益	880	872
従業員給付債務	314	292
その他流動負債	2,983	3,135
流動負債合計	4,651	4,769
非流動負債		
リース負債	767	859
その他非流動負債	500	460
非流動負債合計	1,267	1,319
負債合計	5,918	6,088
親会社の株主に帰属する持ち分合計	10,559	9,172
非支配持分	46	52
資本合計	10,605	9,224
負債および資本の合計	16,523	15,312

IFRS に基づく連結包括損益計算書要約（抜粋）：

(100 万ドル、EPS データを除く)

	2023 年度 第 4 四半期	2022 年度 第 4 四半期	2023 年度	2022 年度
売上収益	4,564	4,554	18,562	18,212
売上原価	3,219	3,164	12,975	12,709
売上総利益	1,345	1,390	5,587	5,503
営業費用:				
販売費	209	202	842	776

	2023 年度 第 4 四半期	2022 年度 第 4 四半期	2023 年度	2022 年度
管理費	219	231	911	902
営業費用合計	428	433	1,753	1,678
営業利益	917	957	3,834	3,825
その他の収益(純額)(3)	315	72	512	300
税引前利益	1,232	1,029	4,346	4,125
法人所得税費用	273	284	1,177	1,142
純利益 (少数株主利益調整前)	959	745	3,169	2,983
純利益 (少数株主利益調整後)	958	744	3,167	2,981
基本 EPS (\$)⁽⁴⁾	0.23	0.18	0.77	0.71
希薄化後 EPS (\$)⁽⁴⁾	0.23	0.18	0.76	0.71

注:

- 上記の情報は、2024年4月18日開催の取締役会で記録された2023年度第4四半期および2023年度の要約された監査済み連結貸借対照表および包括損益計算書から抜粋したものです。
- 当社の業績に関する概況報告書はwww.infosys.comからダウンロードできます。
- その他の収益は財務費用が控除されています。
- 1961年所得税法第250条および第254条に基づき、インドの所得税当局から特定の課税年度に関して受領した命令による受取利息（税引前）2億3,200万ドルおよび税引当金戻入額500万ドルを含みます。この結果、2024年3月31日に終了した四半期および年度の連結ベースの基本および希薄化後1株当たり当期純利益は、約0.06ドルのプラスの影響を受けました。
- 四半期末および年度末の数値は、出典元から抽出され、最も近い桁に四捨五入されているため、本報告書の四半期の数値を前四半期の数値に足し合わせても、必ずしも本報告書で報告されている年度末の数値とは一致しない可能性があります。